

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<p>自動車整備士を要請し、官・民共に未整備である自動車整備環境を整備する。併せて整備教官を養成し、養成機関の自立を図る。</p> <p>1. 第2期研修生当初計画30名に対し32名であり、現在1名の落伍者も無く、熱心に受講しており、2期研修は計画通り進捗している。</p> <p>2. DIT教官・助教に対する教官研修は、日本人教官の直接指導下でシラバスの作成及び研修の一部の教育が実施出来る。</p>
(2) 事業内容	<p>(イ) 日本NGO連携無償資金協力贈与契約(2012年2月20日)東ティモール政府等関係者列席の下、贈与契約式を実施。</p> <p>(ロ) 研修生の選抜 2012年2月18日、競争率3倍の中、DITで一般市民研修生選抜試験を実施し、上位15名(内女性1名)を選抜した。</p> <p>(ハ) 研修の実施</p> <p>a. 2012年4月2日開講式を実施し、引き続き整備研修を開始、現時点までの研修は、4月の大統領決選投票、イースター、その他による休日が6日あり、一部の課目に遅れが生じたが、座学と実習の併用、土曜日及び時間外補講などを実施し、現在、ほぼ計画通り進捗している。</p> <p>b. DIT教官4名に対する研修実習(OJT)は、研修科目構成表の軽易な科目を選択し、シラバスの作成方法及び教育要領を日本人教官の直接指導下で実施している。</p> <p>c. 自動車整備士養成基準、技能判定基準等の国家ライセンス制定支援として、政府の労働開発局制度設定委員会に対し、JDRACの研修プログラムを提示するとともに、資格制定に関する各種アドバイスを実施し、支援している。</p> <p>d. 整備研修と自動車管理点検マニュアルは、本事業終了時完成を目途に順次整備中である。</p> <p>e. 研修終了生の就職援護の確実性を図るため就職先開拓を兼ねた研修生の工場実習を計画中である。</p> <p>f. 研修生の安全指導実習を兼ねたワークショップをDIT校内にて実施した(参加者:約150名)。</p>
(3) 達成された効果	<p>(イ) 事業の直接裨益者数は研修生32名、DIT教官・助教4名で1名も欠けることなく受講しており、目標を達成している。</p> <p>(ロ) 公務員研修生は当初計画5名に対し政府から8名の研修参加要請があり、増員して実施しており、政府車両の稼働率と市民生活支援の向上が更に期待出来る。</p> <p>(ハ) ワークショップ開催において、約150名の若者が参加し、事故の未然防止を目的とした日常点検及び軽易な事前整備等を学習し、点検整備の重要性を認識させることが出来た。</p> <p>(ニ) a. 自動車整備士の資格制度設定を実施している労働開発局制度設定委員会(INDIMO)にDIT自動車整備士養成コー</p>

	<p>ス担当者がメンバーとして認められている（定期会同に参加しアドバイスを実施）。</p> <p>b. 労働開発局制度設定委員会（INDIMO）の資格制度草案検討に際し、JDRAC の研修科目と研修時間を比較検討用に提示、同委員会の策定業務促進に寄与している。</p>
<p>（４）今後の見通し</p>	<p>（イ） 現在事業はほぼ計画通り推進しており、特に支障のあるような問題点はない。</p> <p>（ロ） 研修生の就学率は、現在 100%である。 特に工場研修生は、地方出身の徒弟的勤務者が多く、家庭環境、心情把握に努めるとともに、教育法及び教育要領に工夫を凝らし、全員の研修終了を追及する。</p> <p>（ハ） 事業後半において、第 1 期修了生の〇Ｂ会を開催し、その現況を把握するとともに、事業終了時第 2 期修了生合同の〇Ｂ会を開催し、会の振興を図る予定である。</p> <p>（ニ） 労働開発局（INDIMO）による自動車整備士のベーシック資格が年内を目途に制定予定である。</p>